

教育現場で思うこと(十七)

成末 肇士

大学入試改革を含む大学改革こそが「教育改革」の根本にあると私は考えています。実は、大学改革に関しては中曾根政権下で、内閣直属の臨時教育審議会が発足（一九八四年）一九八七年「大学審議会」が新設されました。そして、「大学教育の改善について」（一九八四年）「大学教員の任期について」（一九八五年）と次々と答申が出されました。そこで検討された重要課題は、受験地獄と学歴社会の問題で、大学間の固定化した序列、階層構造の変格でした。そして、答申された方向は「自由化・個性化・多様化」でした。この方向は経済のグローバル化にともなう行政における「規制緩和」の流れに沿ったものです。

現在日本の大学では、少しずつ改革の動きが続いています。国立大学では、教養学部は事実上姿を消し、専門教育を巻き込む形でカリキュラムが大幅に組みかえられています。私立大学では、国際、情報、政策、文化、環境など、伝統的な学問分野にこだわらない新しい名称のカリキュラムを売り物にした学部の新設が次々と誕生しています。しかし、現実には大学は硬直し

たままで存続しています。大学は学問をする場ではなく、知識や技術を身につけ、学歴を手に入れるための場所になったと思われまます。教室での私語は年々ひどくなり、学生の学力不足を大学教師は嘆いております。他方学生の側からは「黄色くなったノート片手の十年変わらぬ内容の講義」の不勉強な教師の存在にあきれていきます。大学改革がなかなか進まないのはそれなりの理由があり、政府も思いついた事ができないのです。それには日本の大学の歴史を見れば必要があります。

大学と名づけてよいものは十一世紀にヨーロッパで作られた。イタリアのポロニア大学、フランスのパリ大学です。今から九百年前にできたこれ等の大学はギルド（同業組合）のようなものでした。近代的な大学は、ドイツのベルリン大学で、十九世紀の初めにプロシヤによ



って作られました。理性の使い方を教え、知性を鍛練する場として研究を通じての教育をしました。ベルリン大学は世界で最も優れた大学として各国の模範となりました。明治政府は、一八八六年帝国大学をこのベルリン大学を範として作りしました。「帝国大学八国家ノ須要ニ応スル學術技芸ヲ教授シ及蘊奥ヲシテ其ヲ攻メテ研究スルヲ以テ目的トス」帝国大学令第一条です。理想の大学とは、学部、講座に象徴される学問体系をもち、



教育と研究を統合した学問の自由が保障され、教授会自治があり、講義や演習を中心としたものでした。これ等は全て原形をドイツの大学からとり入れられました。

帝国大学は、中央政府の厳しい統制下におかれました。私立の高等教育機関が大学という名称の使用を許されたのは、一九一八年の大学令まで待たなくてはなりません。

調坂を越えることはいらないだろうと車窓に写る越えてきた山谷を見ながら、車の揺れに疲れた体をゆだねた。

この世代交流事業は、三原市教育委員会社会教育課が行なっている人気事業の一つであります。その生涯学習推進の一環として、地域の高齢者や住民の持っている特技・技能など隠れた能力の活用をめざし、地域の人材やお年寄り子ども達の交流を通して、地域学習能力・地域教育力の向上と、地域の活性化を目的としています。

二〇〇〇年から実施される学校完全五日制に備えて、三原市教育委員会がすすめている数多い事業のなかでも成果を上げて

◇御調坂越え

にぎりめしの美味しさと、人情の温かさと大しめ縄に驚いたテクテクトムソーヤ。

穏やかな小春日の冬日、幼稚園の子どもから大人までの総勢二十九名が、落ち葉を踏みしめて御調坂(まごき)をのぼった。

盗人の釜・亀石・分水嶺のお堂・延命の水・法均尼の腰掛け石などを訪れながら、全員が高崎壽郎先生の和セリフに耳を傾けた。昭和初期まで多くの人が尾道と三原への交通の要路として、炭を担ぎ、米を背に、牛を追って利用した御調坂越えを偲ぶ体験をした。

世代交流事業から

深小校長 小林 龍一郎

三回目の出迎えということであつた。八十才を超えた高齢の方の出迎えに恐縮しながら心のこもったパンとジュースの歓待を受ける。

すぐに美生公民館に移動して、八幡神社へ四年に一度奉納している大しめ縄づくりの現場を見学する。約八十人の美生地帯の方々の出迎えにびっくりしながら、代表者の説明を受ける。

この行事がもう二八年間も続いており、新年にふさわしい行事として新聞やテレビで報道されて遠巻きにこの様子を見ていたが、なにを感じ、どう思ったことだろうか。地域の文化を大切に守り力をおわせておられる大人の後姿を頭にしまった事だろ。ジュースとパンのにぎりめしをこまめに食べて、八幡町の人情に恐縮する一日であった。

そのあと、只佐さんの人生回顧館を見学し、独力で作られた御調坂公園で丁寧な説明をしていただいた。歩いてもう再び御



二月町内各種団体行事予定

- ◆小学校(幼)
 - 健康診断 二日
 - 誕生会(幼) 三日
 - 集金日 五日
 - 冬期学園(五・六年) 九・十日
 - 避難訓練 一二日
 - 体重・視力測定(五) 一五日
 - 同(六) 一六日
 - 一日入園(新入園児童) 一八日
 - 参観日(小・幼) 一九日
 - 新一年生入学説明会 二三日
 - マラソン大会 二六日
- ◆女性会
 - 親睦会 十七日(中) 十六日(下) 音
 - 役員会 一三日
- ◆尚寿会
 - 介護保健勉強会
 - 開催月日 二月九日(火)
 - 時間 午後一時三〇分
 - 場所 深町民会館二階

※講師は、市役所高齢福祉課の方を予定しています。皆さんの出席をお待ちしています。

いるものです。会長さんのリドで深小PTAでも昨年度から参加している事業であります。その中には、干川神社秋祭りへの子ども会参加の太鼓踊りなど、年間五、六回のイベントが開催されており、深町の方々のご参加とご協力をお願いいたします。新春ふれあい広場で学校・園を支援していただいた尚寿会・消防団・PTAなど多くの地域の方々に感謝し、お礼を申し上げます。



横網若乃花の離婚劇。昨年五月には将棋の中原と林葉の密通譚。海の向こうではクリントンさんが元氣?だ。日本でも菅さんが名乗りを上げた。芸能界に至ってはマスコミの標的になりやすいせいにかその話題に事欠かない。この種の事件?は、男と女の下半身の問題で、大きな活字で報道される性質のものではない。有名人や公人にはプライバシーは存在しないのか。我々も「四畳半覗き見趣味」の転換を図りたい。人倫に反する行為が原因での失脚は、好ましい「市場原理」である。失脚がいやな人はしないことだ。▼財界人や政治家・役人が不祥事発覚時によく使う台詞に「違法性はありません」がある。裏社会で生きる人ではあるまいし、職務権限をもつ者にはそれなりのモラルが求められる。法律に違反しなければ、この論理は書生論である。

▼全国の自治体で活用?された「旅費・会議費」名目の支出は、勘定科目の拡大解釈による限りなくクロに近い性質のお金で、プライベートな不倫と同一視することはできない。俗なことばで言えば「遊びと職務」の違いである。職務は厳しく追求される。

深の歴史余話 (五)

堂さん巡り (1)

高崎 壽郎



堂の呼称と城之元流野堂
堂は一般的には辻堂と呼称する。堂、お堂、み堂、四つ堂ともいい、備後地方の一部では休み堂、憩い堂、憩亭と呼ぶものもある。深では昔から「堂さん」と呼ばれていたようだ。
勸請されていた地蔵、その他の民間信仰などから、虚空堂、薬師堂、大師堂、観音堂、地藏堂、庚申堂、妙見堂、毘沙門堂、阿彌陀堂などと呼ぶものもある。また深では、地名を冠して干川堂、峠堂といった堂もある。

流野堂は中組城之元にあり、木造寄せ棟造りカワラ葺。本尊は地蔵菩薩で、石佛九体(丸彫坐像一、船形坐像八)と自然石(天地神の文字)一体から成る。
一昨年、本尊のすぐ後ろから創建当時の棟札が見つかった。

開眼導師大通寺住持 庄屋 群蔵
奉建立地蔵堂(宇)
長谷姓吉田郎
大工 貞十郎
同 万兵衛
文政五年 天保廿三日

この棟札からわかること。
・堂創建は文政五年(二二三)で、今から一七七年前である。頼杏坪が芸藩通志を編纂するために、各村の庄屋にその資料

の提出させたのが文政二年(二二)であった。深で一番古い地図はその時提出したものだ。それにはこの堂は載っていない。わずか三年のことである。
・開眼導師は大通寺六代の秀道住職である。
・当時村は庄屋、組頭、長百姓が治めていた。深村は、上・中・下と三つの組に分かれていたので、庄屋一人、組頭三人、長百姓三人の計七人が村役ということになる。いわゆる「村方三役」である。
・余談だが、二十三日を廿三日と書いている。古文書には二十を廿、三十を卅、四十を卍と書いた例もある。
一枚の棟札でも、残しておくといろんなことがわかり興味深い。
この堂には、あと四枚の札が打ち付けてあるが、堂の改修の記録である。一枚は建立時の寄進札であり、あと三枚は明治二八年(二九三)と昭和二五年(二九五)と平成一年(二〇)である。
明治二八年の改修では、当時ぼつぼつ普及しだした瓦を使って屋根葺きをしている。平成一〇年は床板を有志で張り替えた。ケヤキ材の立派なもの。この堂は、どんなことに利用されていたのだろうか。

瓦を使って屋根葺きをしている。平成一〇年は床板を有志で張り替えた。ケヤキ材の立派なもの。この堂は、どんなことに利用されていたのだろうか。

古老にきくと、終戦前後頃までは、八月二〇日の地藏盆に信者が集って会食し、盆踊りを楽しんだそうである。今はその風習はすたれた。
また、以前はよく行商が、ここから大声で声掛けし商売をしていた。今は講中や水掛りの人が集まって、いろんな相談をする場所となっている。
ところで、深の堂さんで一番よく利用されていると思われる

わたしの平成十一年

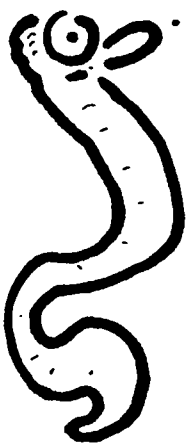
坪見 博文

今年も平凡な新年を迎えた。不況の声を聞きながら、仕事始めにかかった翌日、栃木に住む母の妹が亡くなった。十二人兄弟の末の妹で、母の兄弟は全員天国へ行った。
私も五十代最後の年、天国が近くなった。今年はずっとチャンスの夢を実行する。行動できる元気は残り少なくなった。健康を維持すれば夢は叶う。
私は今頃やっと他人の他人の気持ちに少し理解出来るようになった。そんな気持ちになっても多分楽しい思いが出来るよう生きる。
これまでの楽しい事、辛い事、悲しい事、たくさんあったが、それはビデオテープのようなもの、明日からどのような記録が残せるか。楽しくも、悲しくも、自由になれる。
お金はなくても幸せは得られ

一月二五日、恒例の「新春ふれあいひろば」が町民多数参加の参加の元、小学校で催されました。尚高さ一〇m以上の大とんぼは、尚寿会のみなさんとPTAの共同作業(七〇人)で作られました。材料の稲ワラ軽トラック三台は町内農家に無理をお願いしました。
当日は昨夜来の雨も上がり、太陽も顔を見せる天候に恵まれ、二〇〇人ばかりの参加者は楽しい半日を過ごしました。
この催しは、学校と町民一体となつての行事で、学校と地域住民の交流の場でもあります。児童の健全育成に果たす役目もあるのではないのでしょうか。子どもは、バザー会場で綿菓子やチョコを袋いっぱい詰めて帰って来ました。また、PTAによる即席のうどん、ぜんざい、たこ焼き、フランクフルトは好評でした。▲来年が楽しみです。

★ 楽しかった

新春ふれあい広場



春夏秋冬

梶谷 マサヨ

神明祭 不況の風も 吹きとべと
七転び八起き 大だるま
はからずも 長寿社会に 生き伸びて
還暦の娘に 招かれるとは
寒くとも 正座くずさず 写経する
夫の姿の 目に浮かび来る



城之元(田屋講)流野堂の石佛

絵 船本 輝明